

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171300656		
法人名	社会福祉法人日本ライン老人ホーム		
事業所名	日本ライングループホーム		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1 (電話) 0574-28-9052		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年9月24日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	8.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 79 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田病院、太田メディカルクリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地より少し離れた緑豊かな郊外に建ち、周囲は町営プール、総合運動場など生涯学習施設や社会福祉施設と隣接し、生活環境には恵まれた場所にある。ホームの方針として利用者は比較的軽度の方が多く、野菜作りやにわりの飼育、鯉のえさやりなどの他、日常の家事仕事や手先を使った小物作りなど、毎日の生活にも活気がある。利用者には、個々に見合った役割があり、生き甲斐となっている。この春からは外出の機会が多く計画され、利用者の行動範囲も拡大し、思い出作りにつながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、重度化や終末期に向けた方針の共有に関する改善課題があったが、ホームとして明確な方針が打ち出されており、利用者や家族へも十分な説明が行われ、重度化や終末期に対して安心できる対策が取られている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	各項目を職員間で話し合い、気づきや見直しをも含めた丁寧な自己評価が行われている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議で出された意見や提案には、すみやかに対応している。利用者の生活圏域の拡大にも柔軟に対応し、生き甲斐に繋げている。また、運営推進会議以外でも月1回程度、役場職員・包括支援センター職員・ホーム担当者間の連携を強める連絡会の実現に向け努力している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の意見や苦情は、隠すことなくオープンにし、それに対する対策を講じ、職員意識を高める為にも日常目につく所に掲示し、再発防止に向け日々努力している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	施設周辺には住宅はないが、隣接する施設との交流はもちろんのこと、散歩コースとして往来する地域住民との交流を大切にしている。また、利用者の住み慣れた地域との交流を断つことなく、地域のふれあいサロンへの参加などホームとして出来る限りの努力をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の分かりやすい理念が掲げられ、利用者に対して地域で暮らしていた関係を断ち切らない様ホームとして努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「家族とのつながりを大切にします」「地域とのつながりを大切にします」「愛をもって接します」の理念を職員全員が共有し、ケアに反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	各地域で定期的に行われるふれあいサロンには、その地域出身の利用者が参加出来、馴染みの関係を継続出来るよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員や管理者により自己評価を行い、各項目を丁寧に評価し、新たな気づきや見直しにもつながり、前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見や提案には、すみやかに対応している。利用者の生活圏域の拡大にも柔軟に対応し、生き甲斐につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加も得られているが、それ以外に月1回程度の役場職員、包括支援センター職員、ホーム担当者間での連絡会を提案している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの便りが発行されている。便りには、推進会議でのアドバイスを取り入れ、利用者の写真も掲載しており、利用者の生活の様子、反応などがうかがえる。	○	便りの片隅にでも、各担当者からの身体面や精神面などの個別メッセージを添え、家族の安心につなげることを期待したい。金銭管理が行われているが、毎月家族の確認を取られたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置もあり、家族から職員の言葉遣いや電話の対応に対する苦情が出され、職員の目につきやすい場所に掲示するなど、改善に向け日々努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に関しては最小限に抑える努力がされている。今年4月に施設長が交代しているが、利用者へのダメージになる影響はなく、むしろ利用者には生活圏の拡大につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は状況を見た上で必要な指示を与えているが、職員それぞれの個性もあり、個々の良さを引き出し、ケアに対する意識を高めてもらえるよう努力している。法人内外の研修は充実しており、参加の機会も多い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は外部研修会などで積極的に意見交流を行っている。また、法人内でのグループホーム間では、2ヶ月に1度の合同学習会で交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までに1日体験入居や家族が付き添って宿泊したケースもあり、個々の利用者に応じたサービス利用に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭菜園やにわたりの飼育などを利用者と共にやっている。調理の味付けなども利用者から教えてもらう時がある。利用者同士も支えあう関係が育っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	数ヶ月前より5羽のにわとりを飼育している。にわたりの飼育を通して、昔の暮らしを思い出せたり、自分のやれることを見つけたりと利用者への影響も大きく成果が現れている。今後は、愛犬家の利用者のために犬を飼うことを前向きに検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々の利用者の要望、身体面、精神面を事前に聞き取る調査から家族の要望も取り入れた適切な介護計画が作成され、家族への確認も行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画の見直しが行われている。利用者の状況変化のある場合は、その都度の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する養護老人ホームやデイサービス、特別養護老人ホームとの交流が日常的に行われており、刺激のある日常生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診は、可能な範囲で家族に依頼している。指定医や関連医療機関へは情報提供の必要もあり、職員が同行し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として終末期、看取りは行わない事を入居時に本人や家族に説明し、了解を得ている。重度化や終末期となった場合は、状態に応じて施設・医療機関との連携をはかり、利用者や家族の安心につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	以前に家族からの苦情もあり、職員の言葉掛けはとてども丁寧であり、プライバシーに関しても十分な配慮が伺え、個別の対応が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活では、朝の散歩、にわとりや鯉の世話、台所での洗い物、洗濯たたみなど、職員のサポートのもとで、利用者には個々の役割を持った生活者の姿があった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じた支援がされている。また、利用者間でもお互いに助け合う姿が確認でき、職員も一緒にテーブルにつき、さながら大家族の賑やかな食事風景があった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食前後が入浴時間となっており、どの利用者にも、少なくとも週3回の入浴が提供されている。要望に応じて毎日入浴する利用者もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在は利用者全員が女性であり、手先の作業的な事やカラオケ、買物等の支援が行われている。また、最近は外出の機会も多く、外出先での記念写真も多数飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は地域住民の散歩コースにもなっており、天気の良い日は散歩に出掛けている。利用者の希望に応じて買物や喫茶店へも外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は二重扉になっているが、日中は施錠されておらず、自由に出入りできる。廊下の窓も網戸になっており、通気が良い。安全の為夜間は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練が行われ、記録も残している。年1回は自治会の消防団が参加する訓練も実施し、近隣企業とは防災規程を取り交わしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一定の食材は定期的に発注しており、不足分のみ買物で購入しているが、基本的に冷蔵庫にある食材を見てメニューを立てている。1ヶ月ごとに栄養士の栄養指導を受けており、バランスの良い食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりが感じられ、とても落ち着いた雰囲気、明るく、風通しも良い、台所の窓には、家庭菜園のゴーヤのグリーンが目にも優しいカーテンになっており、涼しさをかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、どの部屋もコンパクトで整理整頓が行き届き、TVやマッサージ機など馴染みの物が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。